



オンライン講座

女性の知恵で社会をデザインする講座

女性が日々の生活の中で、あるいは人生の節目において感じる悩みや疑問は、個人的なこととして矮小化され、あるいは当事者の自己責任とされがちですが、実は地域や社会の制度・政策の課題であることが多々あります。本講座はそれを「社会をデザインする」として、一人ひとりの日々の暮らしと、社会の制度やまちのあり方が密接に関連することに気づき、関心領域をもとに、調査・考察・取材などを通して、望むものを形にし、成果報告会を実施します。またワークショップを通じて、共通の関心事を持つ女性とつながるきっかけを提供します。

回	日程	内容	講師
1	9/19(日) 14時～16時	オリエンテーション	男女共同参画推進センター 事業コーディネーター
		参加者自己紹介・質疑応答	進行：男女共同参画推進センター 事業コーディネーター
2	10/24(日) 14時～16時	ワークショップ 私は社会をここからデザインしてみたい	ゲスト：さいたま市女性の活躍を 推進する議員連絡会
3	11/7(日) 14時～16時	私のテーマ（仮）きいてください	男女共同参画推進センター 事業コーディネーター
		ガイダンス （成果報告までの進め方等について）	
4	1/23(日) 14時～16時	成果報告会「社会をデザインする私たち」 ※全員の発表のあと、全体講評をいただきます。	講評者：さいたま市女性の活躍を 推進する議員連絡会、企業人事担 当者など

※ZOOMを使用します。

※パートナーシップさいたまへのZOOMの使用方法に関するお問い合わせは受け付けておりません。

- 対象 市内在住・在勤・在学の女性で原則4回出席可能な方
- 定員 20名（先着順）
- 参加費 無料
- 申込 **8月3日(火) 9:00～8月31日(火)**
※以下の申込フォームから、お申込みください。



「さいたま市女性の活躍を推進する議員連絡会」とは

互いに多様性を認め合い、より豊かなさいたま市となることを目指し、これに賛同するさいたま市議会議員で構成されるグループです。

(URL) <https://www.city.saitama.jp/enquete/e001036.html>



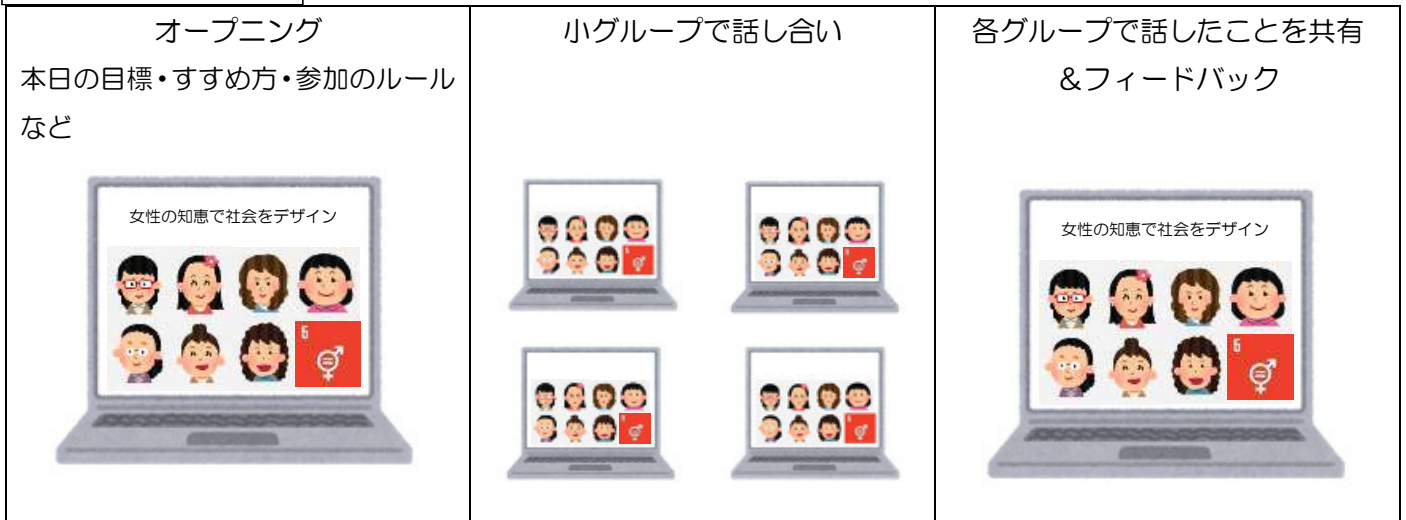
◎お問い合わせ先◎ ※お申込みは申込フォームより受け付けております。
さいたま市男女共同参画推進センター(愛称：パートナーシップさいたま)
〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町 1-10-18 シーノ大宮センタープラザ 3階
TEL：048-642-8107 FAX：048-643-5801
Eメール：danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

→裏面もあります

このイベントの開催に要する経費は、44千円です。

令和3年度「女性の知恵で社会をデザインする講座」の流れ

第1回 ～ 第3回



各自 テーマ設定、調査・考察・取材、成果報告会での発表資料の作成



第4回 成果報告会 「社会をデザインする私たち」

【参考】 令和2年度「女性の知恵で社会をデザインする講座」はこんな感じでした！

テーマ一覧

性教育の充実と女性の活躍	企業内での女性差別
第5次男女共同参画基本計画策定に対するパブリックコメントに際して集めた30歳以下の若者からの1000件以上の意見とユース提言書について	出産→育児へスムーズな移行を実現するためには
よりよく生きたい 働き手・子供の増加に期待！ 「不妊治療休業」のご提案	社会的受け皿の構築、特に単身者について
次期、さいたま国際芸術祭でジェンダー平等を	新しい生き方でパッピーな毎日に！
幼児教育保育無償化2号認定についてのアクション	子どもも先生も幸せに過ごせる教育環境づくりについて～先生の働き方やキャリアを考える

講評より

励みになる言葉をたくさんいただきました。

詳細は以下よりご確認ください。

講座内容報告 →



実施報告書 (PDF) →



様々な年齢や立場の女性が、それぞれの価値観をもとに思いを共有する場

市民・事業者・議会・行政はまちのステークホルダー

「もよもよ」はジェンダー不平等につながっている

国際芸術祭にもジェンダー平等の問題があるとは市のイベント予算が東京の大企業に流れる現状を知った

女性のほうが多いZoom会議は初めて！！

SNS活用により若者の声を国に届けた取り組みが素晴らしい声を形にする行動があってこそ社会をデザインできる

組織あるいは業界の尺度にとらわれがちである自分を再認識した自社の女性従業員や管理者の現状を再確認する機会となった

事業者として人材育成の重要性を再認識した今後の制度設計に参考になる

社会的な安全地帯の確立の重要性離婚後の単身者は社会のセーフティネットから漏れがち

若い方々がこの取り組みに参加してくれて今後のさいたま市に希望が持てる選択的夫婦別姓ぜひ実現したい！

学校と保護者の相互理解が重要
性教育は変えていかなければ
特別支援学級の児童生徒にも届くものを

妊活・子育て支援など、自分自身の家族との関係を省みて考えさせられた

そのまま市に提案できるような濃い内容発表者が取材などで根拠を明確にしていって説得力あり